

1. 構想の概要

“藝大” 創造イニシアティブ ～オンリーワンのグローバル戦略～ 構想の概要

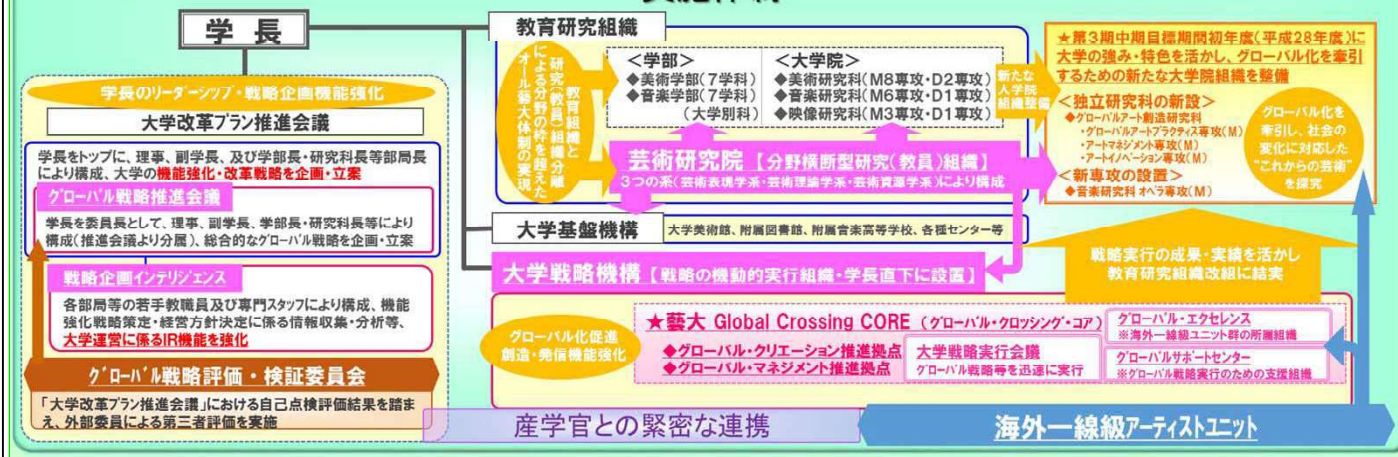
- ◆海外からの一線級アーティストユニット誘致や国際共同カリキュラム構築等によるグローバル人材育成機能の強化、海外への戦略的展開、国際プレゼンスの確立等のグローバル戦略を、大学の総力を結集し“オール藝大”体制により推進
- ◆東アジアにおける中核的機関としての機能・役割を確立し、海外大学・関係機関等との連携基盤を活かしながら、世界トップアーティスト育成等を総合的に推進することにより、世界の有力芸術大学をも凌駕・超越する国際ブランド“藝大”へ飛躍
- ◆本学が立地する“上野の杜”が有する世界的にも屈指の芸術文化潜在力を最大限活かし、本学のグローバル戦略・人材育成と、2020年東京オリンピックを視野に国が推進する“上野「文化の杜」新構想”を有機的に連動させ、藝大の“人財”等ポテンシャルを活かしたコンシェルジュ機能を発揮し「文化プログラム」を実行
- ◆“上野の杜”の魅力・実力を世界中に浸透させ、世界を代表する「国際芸術文化拠点」への発展に繋げ、東京都・関係機関等との広域的な連携・共同により、多様な文化資源のシームレスな流れを創出し、芸術文化ネットワークを構築



SGUの取り組みを通じて目指す大学の将来像

- ◆育成した人材が傑出した技芸・知識・感性・アイデンティティを武器に、芸術文化の創造・発信や国際貢献等に力を発揮
- ◆国際的見地から“藝大”の強み・特色を明確化し、国際社会に発信することで、“世界の藝大”としてのプレゼンスを確立
- ◆教員・学生等がアートコンシェルジュとなり、世界の人々に日本の芸術文化価値を伝える為の国際発信拠点を形成
- ◆“上野の杜”を世界最大のアートプラットホームとし、文化資源の統合により国際都市東京に芸術文化ネットワークを構築

実施体制



10年間の計画概要

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
学内機能・基盤強化	グローバル戦略推進委員会、戦略企画インテリジェンス等学内体制整備	大学戦略機構“Global Crossing Core”設置			
		留学生支援、日本人留学支援、海外ユニット誘致等のサポートを行う“グローバルサポートセンター”設置			
“Integration”		新たな年俸制度への移行による一線級アーティスト・クリエイター等卓越した人材の獲得			
		グローバル戦略の第三者評価・検証を行う“グローバル戦略評価・検証委員会”設置			
海外一線級アーティストユニット誘致	ユニット誘致準備(渡航・協議)	ユニット誘致最終調整	新たな研究(教員)組織“芸術研究院”設置、教員選考方法等の見直し		
			学生支援のための“総合キャリア・ポートフォリオシステム”開発開始、“シニアチューター”配置		
“Collaboration”		国際共同プロジェクト開始	新研究科・専攻設置、飛び入学導入等に係る検討・準備		
			国際芸術創造研究科、音楽研究科オペラ専攻設置等、組織整備		
海外戦略拠点整備	拠点機能検討 拠点整備準備(渡航・協議) 海外における制作・展示・公演等国際プロジェクト教育ユニットの海外派遣等の検討・実施	拠点整備①:パリ、北京	国際芸術創造研究科、音楽研究科オペラ専攻設置等、組織整備		
			飛び入学、ナンバリング、シラバス英語化、外国語科目・コースの整備等		
“Development”		国際共同プロジェクト開始	ユニット誘致①:ファインアート分野(ロンドン芸術大学 他)、映画分野(フランス国立映画学校 他)		
			ユニット誘致②:音楽表現分野(ベルリンフィルハーモニー管弦楽団 他) オペラ分野(ウィーン音楽演劇大学 他)、工芸・文化財分野(精華大学 他) アニメーション分野(ハーバード大学 他)		
国内連携基盤強化	上野の杜他、国内関係大学・企業等との協議、体制整備、システム検討	国内の自治体・企業等との社会実践(ソーシャルプラクティス)、アウトリーチプログラムの実施	ジョイントディグリープログラム導入・順次拡充		
“Branding”	国内外の芸術系大学との協議開始	国際芸術系大学サミット開催	拠点整備②:ロンドン、ベルリン、ローマ、ウィーン、ブダペスト、ボストン、ソウル		
			拠点整備③:ロサンゼルス、台北、ハノイ、ジャカルタ		
先導的ブランディングシステム構築			拠点整備④:クアラルンプール、ウランバートル		
		上野の杜他、国内関係大学・企業等との協議、体制整備、システム検討	国内の自治体・企業等との社会実践(ソーシャルプラクティス)、アウトリーチプログラムの実施		
			“上野の杜”をリージョナルキャンパスとした制作・展示・公演等活動の実施		
			“上野の杜”関係機関との共同によるアートコンシェルジュ機能整備、キャリアアッププログラム開始		
			“上野の杜”関係機関との共同による芸術文化資源の総合アーカイブネットワーク構築		
			“上野の杜”における国際芸術の祭典を検討・開催		
			ブランディングに係る観点、指標等制度設計に向けた検討(有識者会議設置)		
			“藝大”の過去の受賞歴等実績、国際貢献活動等の記録に係る情報収集・整理		
			ブランディングに係る海外芸術系大学の調査		
			国内外の芸術系大学・機関との協議		
			ブランディング戦略としての教育情報等の多言語国際発信、国際芸術系大学サミットの実施		

整備したグローバル基盤を複合的に作用させ、更なる展開へ

平成31年度

令和2年度

令和3年度

令和4年度

令和5年度

東京オリンピック2020にあわせ、文化芸術プログラムを実行

平成30年度までに学内機能・基盤強化、海外一線級アーティストユニット誘致の整備・拡充、海外拠点の整備、国内連携基盤の強化、先導的ブランディングシステムの設計、試行・検証を完了させ、自己点検・外部評価・政策動向等を踏まえつつ、東京オリンピックにおける文化芸術プログラムの展開を経て、個別事業・諸活動を継続

PDCAサイクルによる不断の見直しを実施、サステナブルなグローバル化を実行

特徴的な取り組み

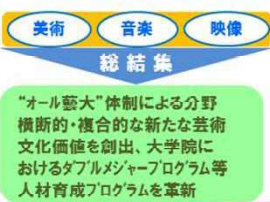
“Integration”

【統合・集積】

世界的にも稀な総合芸術大学として、本学が有する美術、音楽及び映像に係る世界水準の教育研究リソースを総結集し、分野横断的・複合的な「オール藝大」体制の下、複数分野を専攻する大学院「ダブルメジャープログラム」実施等、海外一線級ユニット誘致とも連動し多角的・多面的アプローチによる新たな芸術文化価値「ジャパンブランド」を創造・発信

“藝大”にしか実現できない

独創的・先導的な戦略を実行



“Collaboration”

【共同・共演】



“Development”

【展開・発展】

我が国屈指の文化集積地“上野の杜”のポテンシャルを活かし、上野の杜全体を「広域(リージョナル)キャンパス」として活用、「ソーシャルプラクティス」や「国際芸術祭」など海外一線級ユニットも活用した人材育成・教育研究成果発信により「国際遊学都市」へと展開、2020年東京オリンピック開催を契機に「国際的芸術文化都市」へ発展



Quad Initiative

戦略実行に係る4つの先導力

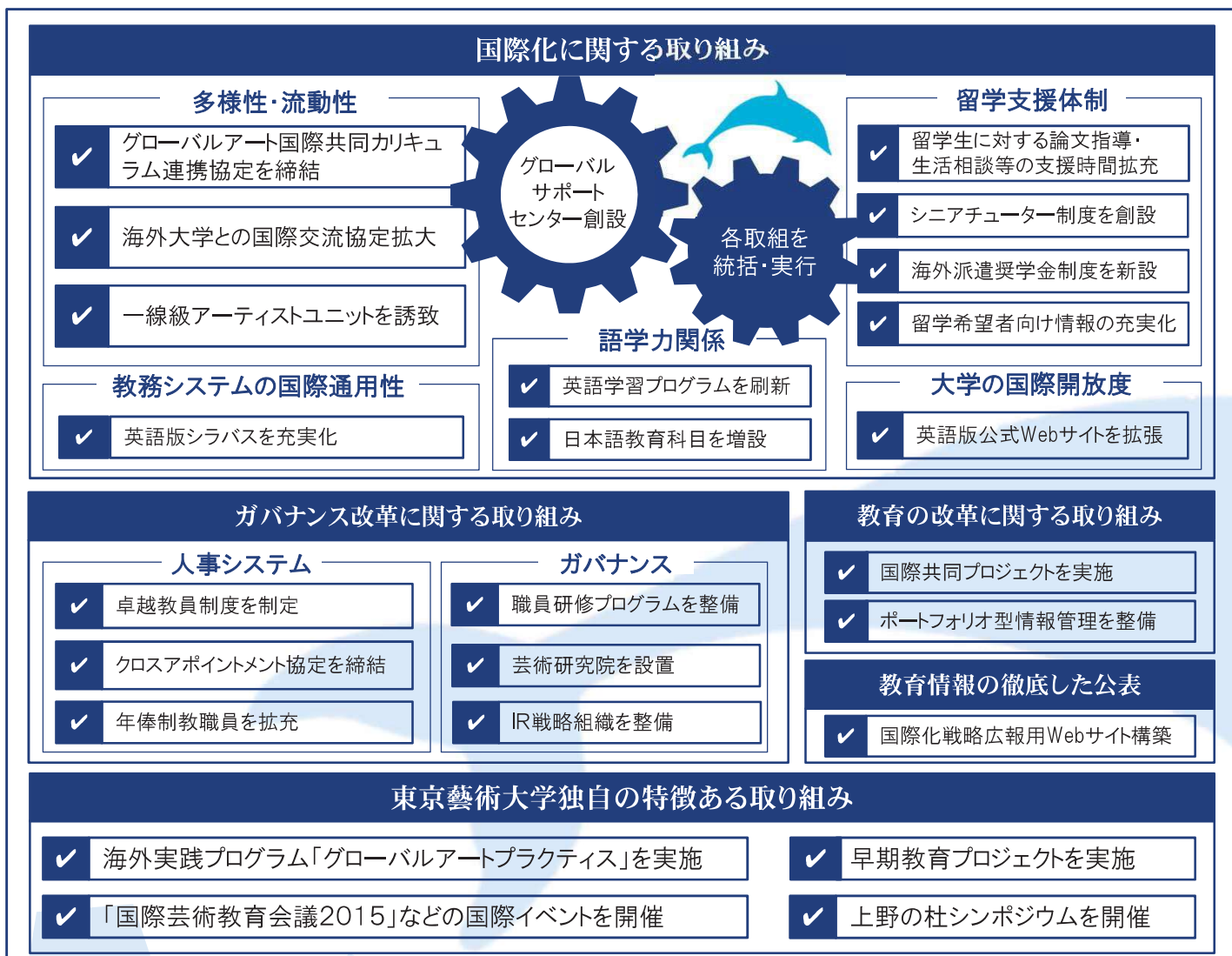
未だ確立されていない世界の芸術系大学の国際指標や相対的な強み・特色を、本学が中核となり、世界一流芸術系大学と海外一線級ユニットとも連携しつつ検証・分析して芸術系大学に係る評価のグローバルスタンダードを構築し、世界における本学の教育研究力等国際プレゼンスの明確化や国際発信により「藝大ブランド」を確立し、“上野の杜”の国際プレゼンスも併せて向上

“Branding”

【価値・プレゼンス向上】



2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)



取り組みの詳細

海外の芸術系大学・機関と国際的・先進的な連携体制を構築

■平成26年度、東京藝術大学のグローバル展開を推進する中核組織として、「**グローバルサポートセンター**」を創設した。

■同組織には**外国籍教員**や**海外大学で学位を取得した教職員**を配属し、国際連携に係る交渉促進、留学生・留学希望者の支援強化、教育システムの国際通用性向上など、全学的なグローバル戦略を実行に移した。

■また、世界最高水準の芸術教育・実践を国内外の様々なフィールドで展開するため、美術分野では、**ロンドン芸術大学**、**パリ国立高等美術学校**、**シカゴ美術館附属美術大学**との「**グローバルアート国際共同カリキュラム**」構築に向けた連携協定を締結。音楽分野では、**英国国立音楽院**との教員・学生の相互交流や共同プロジェクト開催についての**協定を締結**した。

■この他にも、多数の海外芸術系大学・機関との**国際交流協定の締結**や連携の促進を行い、持続的でグローバルな教育体制を構築した。



↑四大学による「グローバルアート国際共同カリキュラム」構築に向けた連携協定調印式。

←英国国立音楽院との交流協定調印式。

教職員採用制度・研修プログラムを整備

■**年俸制教職員**を拡充し、また、海外大学等との交渉に参画する**国際実務研修**、**長期的な英語研修**を開始した。

教員組織・ガバナンス体制を再構築

■分野横断型の教員組織「**芸術研究院**」を設置し、また、経営戦略やブランド戦略を担う**IR組織**を構築し、専任研究者を配置した。

一線級アーティストユニットの誘致による国際共同プロジェクトを開始

■海外芸術系大学・機関との連携体制を基盤として、**新設した卓越教員制度やクロスアポイントメント協定等の制度を活用**し、数多くの**一流アーティストを教員として誘致**し、学生との共同制作・共同演奏等を開始した。

■美術分野では、**国際共同カリキュラム連携校とのコラボレーションプロジェクトが始動**。藝大の教員・学生と各大学の教員・学生とがチームとなって東京とロンドン／パリ／シカゴを往来し、共同の授業として、各国で行われる国際芸術祭などを舞台にした共同制作・成果発表を実施する。

■音楽分野では、**ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団**から演奏家を招き、学生への実技指導や演奏会での共演を実施した。引き続き、**パリ国立高等音楽院、英国王立音楽院、リスト音楽院**などから教員を招聘する。

■映像分野では、**南カリフォルニア大学**などから教員を招き、バーチャルリアリティなどの**レクチャーを開催**する。また、連携校との**国際学生共同制作や、カナダCDMと横浜市との産学官国際共同プロジェクト**を実施する。



←パリ国立高等美術学校から誘致した教員による特別講義。「ポスト・フクシマのアート」などのテーマが扱われた。

→ベルリン・フィルから招聘した教員による演奏指導。奏楽堂でのコンサートも開催された。



←中国伝媒大学と韓国芸術総合学校との「アニメーション国際学生共同制作」の作品。

語学学習プログラムを刷新

■TOEFL対応科目の開講、e-Learningシステムの導入、英会話個人レッスンの拡大、「芸術家としての英語表現」をテーマとした**特別講座の実施**など、多角的改革を行った。

■また、**日本語・日本事情担当教員を拡充**し、留学生の為に**日本語科目を増設**した。

各取組を連動させ全学的な国際化を推進中

教育支援・教育情報発信機能を増強

■学生の海外留學歷、海外活動歴、語学能力、社会実践活動の記録等についてデータを蓄積し、修学支援に活かす、**ポートフォリオ型情報管理の仕組みを構築**した。

■また、**英語版シラバス・英語版公式Webサイトを拡充**した。

留学生・留学希望者を支援する仕組みを充実

■留学生に対する**論文指導・生活相談等の支援時間拡充**に併せ、留学生の学習・生活を組織的にサポートする為に、**シニアチューター制度を新設**した。

■また、「**海外派遣奨学金**」制度を新設し、**海外留学の手引き改訂**等の情報整備と併せ、海外留学・海外研修を希望する学生への支援を充実化した。



学生の海外活動機会の拡充

■世界を舞台にした**実践型教育プログラム「グローバルアートプラクティス」事業を実施**し、多くの学生が海外での展示会、演奏会、共同制作などを行った。



↑パリ島での制作展示会



↑クラン=モンタナでの制作展示会

教育現場での実践を含む国際イベントを開催

■アジア6カ国から10の芸術系大学を招いて開催した「**国際芸術教育会議2015**」では、参加各校の教員と本学の教員・学生が分野別に展示会やワークショップ等を実施し、その成果を含めて全体シンポジウムを行うことで芸術教育の現場の実践的な知見を共有した。



←オープニングでは国際コンクール受賞学生が演奏。

■また、「**産学官アニメーション国際シンポジウム2015**」では、「人材育成」と「コンテンツプロデュース」という2つのテーマについて、世界各国で活躍する教育者や実務者を招いて議論した。

早期教育プロジェクトを実施

■福岡と札幌で、**小学生を対象にレッスンを開催**（ピアノ・ヴァイオリン・フルート）。子ども達が目を輝かせた。



上野の杜シンポジウムを開催

■上野「文化の杜」新構想**シンポジウムを開催**し、各分野の専門家と200名を超える来場者が意見を交わした。



広報機能を強化

■国際化戦略の推進状況を情報発信するための**Webサイトを新設**した。

<http://global.geidai.ac.jp>

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

国：国際化関連
 ガ：ガバナンス改革関連
 教：教育改革関連
 学：大学独自の成果指標関連

グローバルアート国際共同カリキュラム

国
教
学

藝大と各連携大学の学生・教員の混成チームが、双方で単位化した共同授業として、東京とパリ／ロンドン／シカゴを行き来しながら共同調査・制作を行い、芸術祭等で成果を発表した。藝大生20名、連携大学の学生20名が参加。



パリでの共同ワークショップ



越後妻有トリエンナーレでの成果発表



ロンドンでの共同授業

東京藝術大学 × パリ国立高等美術学校

共同授業 in パリ
(6月：2週間)

共同授業 in 東京
(6-7月：3週間)

成果発表 in 新潟
(7-8月：3週間)

東京藝術大学 × ロンドン芸術大学

共同授業 in ロンドン
(8月：2週間)

共同授業 in 東京
(10月：3週間)

成果発表 in 高松
(10月：1週間)

東京藝術大学 × シカゴ美術館附属美術大学

共同授業 in シカゴ
(11月：10日間)

共同授業 in 東京
(1月：1週間)

成果発表 in 広島
(1月：1週間)



高松（栗林公園）での展示・成果発表



シカゴ美術館附属美術大学との共同授業

海外一線級アーティストユニットの誘致

国
ガ
学

パリ国立高等美術学校、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、パリ国立高等音楽院、英国王立音楽院、南カリフォルニア大学、パリ国立高等装飾芸術学校、カナダ・Centre for Digital Media等から美術・音楽・映像分野の世界一線級アーティストを教員として誘致し、特別講義、個人指導、コンサートでの学生との共演など、多彩な教育プログラムを展開した。



招聘教員による個人レッスン



アニメーション・ドキュメンタリー、バーチャルリアリティの授業



海外実践型研修授業 Arts Study Abroad Program

国
教
学

教員が専門分野の特色を活かし、各国の芸術祭や音楽祭への参加、海外芸術系大学との共同制作など、海外実践型の研修授業を企画・実施した。美術・音楽・映像の3分野計11の活動に86名の学生が参加。参加学生には、大学から「海外派遣奨学金」が給付され、渡航費や滞在費などの学生負担が大きく軽減された。



カンボジアでの模刻実習



ベトナム美術大学との漆芸共同授業



バリ島における儀礼・祭礼の撮影



中国工芸史に関する日中学生会議



International Horn Symposium への出演



イギリス・湖水地方における音楽祭への参加



ロシアにおける音楽祭「日本の心」での公演

グローバル・リーダーによる特別講演の開催 | 芸術文化外交の推進



藝大が有する環境や教育研究成果には世界各国の要人も注目している。平成27年度には、イタリア共和国マッテオ・レンツィ首相による日伊の芸術文化交流をテーマとした特別講演や、フランス前首相(現・外相)・ナント市名誉市長であるジャン＝マルク・エロー氏による特別講演「よみがえるナント文化による都市再生の軌跡」を開催した。また、オランダ王国のマルク・ルッテ首相が来訪され、芸術と科学との融合等の分野における日蘭の国際連携に向け、学長と会談した。



イタリア首相による特別講演



オランダ首相との会談

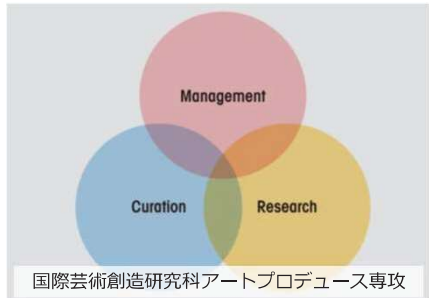


フランス前首相による特別講演

グローバル社会を切り拓く新研究科・新専攻の設置



平成28年4月、大学院に「国際芸術創造研究科」を新設した。「アートマネジメント」「キュレーション」「リサーチ」の三領域で、芸術と社会の新しい関係を提案できる卓越した人材の育成を進める。さらに、美術研究科にはグローバルアートプラクティス専攻、音楽研究科にはオペラ専攻をそれぞれ開設し、世界の第一線で活躍できるアーティストの輩出を目指す。



国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻



美術研究科グローバルアートプラクティス専攻



音楽研究科オペラ専攻

早期教育プロジェクトの全国展開 | 飛び入学制度の開始



平成27年度は、7都市で計9回のプレレッスンを開催し、全国の小中学生・高校生に対して本学の教員・学生が演奏指導やミニコンサートの披露を行った。また、飛び入学についても制度設計を完了し、第一回の入試を実施した。

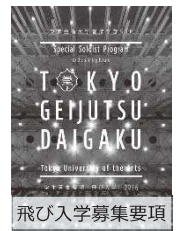
上野 7.28	北九州 12.26
和歌山 8.20	仙台②③ 1.31
浜松 9.26	宮崎 3.12,13
仙台① 12.6	札幌 3.28,29



早期教育プロジェクト in 和歌山



早期教育プロジェクト in 浜松



飛び入学募集要項

世界最高峰の芸術系大学・機関との国際交流協定の締結



平成27年度に新規締結した国際交流協定

- 国立台湾師範大学
- パリ国立高等装飾芸術学校
- リスト音楽院
- ベルリン芸術大学
- オランダ芸術科学保存協会
- 檀国大学 (映像コンテンツ専門大学院)



ベルリン芸術大学との協定調印



リスト音楽院との協定調印



オランダ芸術科学保存協会との協定調印

「オール藝大」で推進する多彩なグローバル化の取組



- 台湾教育部招聘による芸術系大学・機関への学長訪問
- 国際シンポジウム「社会を創る美術教育」での学長スピーチ
- シンポジウム「グローバル時代の芸術大学の未来」の開催
- フランス首相夫人による音楽学部施設・授業風景の視察
- 韓国文化院との連携による日韓文化交流事業の推進
- 外国人留学生の為の日本文化体験イベントの開催
- ドイツ語、フランス語、イタリア語の語学集中講座開講
- 「留学生の藝大体験記」を日本語/英語でWeb発信



茶の湯と日本文化



ゴールドスミス・カレッジ校長の講演

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【東京藝術大学】

国：国際化関連
 ガ：ガバナンス改革関連
 教：教育改革関連
 学：大学独自の成果指標関連

新しい研究科・専攻における世界最高水準の教育プログラム

国
教
学

平成28年4月に創設した国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻、美術研究科グローバルアートプラクティス専攻、音楽研究科オペラ専攻において、海外大学との共同プロジェクトや国際的な教員陣による授業を積極的に展開した。



ロンドン芸術大学との共同授業、高松（栗林公園）での展示・成果発表（グローバルアートプラクティス専攻）



特別招聘教授による講義（アートプロデュース専攻）

海外アーティストによる指導（オペラ専攻）

海外実践型研修授業 Arts Study Abroad Program 2016

国
教
学

美術・音楽・映像・国際芸術創造の4分野・14企画に合計150名の学生が参加した。



シュヴァインフルト応用科学大学でのマガジン制作ワークショップ

学生オーケストラによるMidwest Band Clinic 出演

マレーシアにおけるデジタルシネマ制作ワークショップ

ソウル大学校におけるアートマネジメントに関する討論会

多様なスペシャリストの招聘 International Specialists Invitation Program 2016

国
教
学

様々な形で芸術文化に関わる外国人専門家を招聘し、特別講義やワークショップなど、10企画を開催した。



中国書法学院長による中国絵画の線と技法に関する講義

ロンドン大学名誉教授による都市空間の質的表現に関するワークショップ

英国王立音楽院・作曲科教授の招聘による邦楽器の音色や奏法に関するワークショップ

ハーバード大学教授によるアメリカの音楽研究に関するゼミナール

ベルギーのアニメーション作家による「動きが主役になる」をテーマとしたワークショップ

中国・韓国・タイのアーティストらによる「ランドスケープ」をテーマとした展覧会

国際シンポジウムの開催 | 芸術文化外交の推進



本学を卒業・修了し母国で活躍している元留学生の招集による「Global Homecoming2016」、ヨーヨー・マと仲間たちによる「芸術と科学に共通するバックグラウンドは何か？」をテーマとしたパネルディスカッションとコンサート、「グローバル社会における芸術文化の創造と大学の未来」をテーマとしたシンポジウムを開催した。また、G7伊勢志摩サミットのサイドイベントを本学教員が担当し、「テロと文化財」について各国首脳に説明した。



「Global Homecoming2016」



「ヨーヨー・マと仲間たちによる討論会」



、「グローバル社会における芸術文化の創造と大学の未来」



G7伊勢志摩サミットにおけるサブイベント「テロと文化財」

海外一線級アーティストユニットの誘致



ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、英国王立音楽院、ヘンシェル四重奏団、南カリフォルニア大学、フランス国立映画学校、ロンドン大学等から各分野の世界一線級アーティストや研究者を教員として誘致し、特別講義、個人指導、講評会、コンサートでの学生との共演など、多彩な教育プログラムを展開した。



海外の第一線で活躍する演奏家によるレッスン



アニメーションtoゲーム講評会

国際交流協定の新規締結



平成28年度に国際交流協定を新規締結した大学・機関

- チューリッヒ芸術大学
- フランス国立映画学校
- メルボルン大学ビクトリア・カレッジ・オブ・アート
- 淑明女子大学校
- ミュンスター美術アカデミー

早期教育プロジェクト



平成28年度は10都市で計12回のプレレッスンを開催



「オール藝大」で推進する多彩なグローバル化の取組



- 全国芸術系大学コンソーシアム (JUCA) の設立
- 台湾・日本芸術文化交流事業 (展覧会、シンポジウム) の実施
- 韓日学生交流展 Challenge Art in Japan 2016〜環状の岸辺〜の開催
- 英国での日本留学フェア Experience Japan Exhibition 2016への参加
- オランダ芸術科学保存協会 (NICAS) との共同研究推進
- 清華大学美術学院60周年記念式典への参加
- 外国人留学生の為の日本文化体験イベントの開催
- ドイツ語、フランス語、イタリア語の語学集中講座開講
- 日本人学生と外国人留学生の語学交流授業の開催



Experience Japan Exhibition 2016

5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【東京藝術大学】

国：国際化関連
 ガ：ガバナンス改革関連
 教：教育改革関連
 三：大学独自の成果指標関連

国際芸術系大学サミットの開催 | 芸術文化外交の推進



平成29年度に創立130周年を迎えた本学は、今後10年間の重点推進項目「NEXT 10 Vision」を発表し、その中で国際化の重要性を改めて強調した。世界各国から8大学の学長・学部長が一堂に会し、芸術大学のありかたと文化交流について意見を交わした「五大陸アーツサミット2018」、シルクロードから奈良に至る各国の壁画を取り上げた展覧会「素心伝心 クローン文化財 失われた刻の再生」、東京藝大フィルハーモニア管弦楽団による「日本チリ国交樹立120周年記念公演」等、一年を通して数々の国際交流事業を実施した。



五大陸アーツサミット2018では世界的視野から芸術のあり方について議論がなされた



東京藝大フィルハーモニア管弦楽団・日本チリ国交樹立120周年記念公演



「オール藝大」で推進する多彩なグローバル化の取組

国 ガ 教 三

- 台湾・日本芸術文化交流事業(展覧会・シンポジウム)の実施
- エストニア教育研究大臣ら海外要人との連携強化に向けた協議
- グローバルサポートセンター教員による外国人留学生向け特別講演の開催
- 外国人留学生の為に日本文化体験イベントの開催
- 澤学長ら幹部団による敦煌研究院(中国)視察の実施
- 新たな海外派遣危機管理マニュアルの策定
- 外国人留学生との交流による異文化理解力・英会話力トレーニングを職員向けに提供開始



澤学長ら幹部一行の敦煌研究院訪問



日本文化体験プログラム



エストニア教育研究大臣の来学

海外一線級アーティストユニットの誘致

国 ガ 三

英国王立音楽院、ロンドン芸術大学、シカゴ美術館附属大学、南カリフォルニア大学、リスト音楽院、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等から各分野の世界一線級アーティストや研究者を教員として誘致し、特別講義、個人指導、講評会、コンサートでの学生との共演など、多彩な教育プログラムを展開した。



海外の第一線で活躍する演奏家によるレッスン



南カリフォルニア大学教員によるワークショップ

外国人留学生・日本人の留学希望者支援体制の強化



平成29年度には、海外留学を考えている学生に、留学情報や奨学金情報等を提供する「留学説明会」、本学の日本語クラスで学ぶ外国人留学生と、英語クラスを受講している日本人学生間の交流活性化を目的とした「日本人学生と外国人留学生の交流授業」、本学職員が実際に海外に滞在し、語学力とともに異文化理解度を高める「海外短期語学研修」等の実施を通じ、全学体制で学生の派遣・受入体制を強化した。



職員の海外短期語学研修



日本人と外国人留学生の交流授業



海外留学希望者を対象とした説明会

海外実践型研修授業 Arts Study Abroad Program 2017



美術・音楽・映像・国際芸術創造の4分野・13企画に合計86名の学生が参加し、海外渡航を通じた芸術文化活動を実践した。



南カリフォルニア大学でのアニメーション上映



マーストリヒトでのホルンフェスティバル



欧州を巡りカッセル、ベネチア、リウブリナの3都市で芸術祭に参加



キジル石窟の調査

多様なスペシャリストの招聘 International Specialists Invitation Program 2017



様々な形で芸術文化に関わる外国人専門家を招聘し、特別講義やワークショップなど、10企画を開催した。



中国人アーティストによる、染織に関するアーティストトーク



アニメーションに関する公開講義



インドより来日した教員によるワークショップ



ライムントクルメ氏による講義の様子



リユーベック音楽大学との交流授業



中国の教員・学生を招聘しての交流事業。

国際交流協定の新規締結



平成29年度に国際交流協定を新規締結した大学・機関

- ミュンスター美術アカデミー
- リユーベック音楽大学
- アテネ国立芸術大学
- ヴァイマル古典財団
- ヴェルツブルク・シュヴァインフルト応用科学大学
- テヘラン芸術大学映画演劇学部
- オスロ国立芸術アカデミー
- 上海大学上海美術学院

早期教育プロジェクト



平成29年度は11都市での公開レッスンに加え、中学生を対象とした「東京藝大ジュニア・アカデミー」を開校

6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【東京藝術大学】

国：国際化関連
 ガ：ガバナンス改革関連
 教：教育改革関連
 三：大学独自の成果指標関連

「オール藝大」で推進する多彩なグローバル化の取組

国
ガ
三
教

ヴィヴァルディの名曲「四季」を本学映像研究科がアニメーション化し、本学と南カリフォルニア大学(USC)両音楽学部の実験学生・澤樹学長による生演奏に合わせ、音楽と映像の同期上映を行うライブコンサートを米国・ロサンゼルスで開催した。本学COI拠点及び(株)ヤマハが共同開発したAI(人工知能)技術が、演奏のたびに速度等が微妙に変化する生演奏と映像をぴったり同期させ、世界初の取組であった。まさに「オール藝大」を結集して取り組んだこの公演の様子は、全国ニュースや国際放送にも取り上げられた。



世界初「AI映像同期システム」についてのレクチャー



880席の会場は満席になった



芸術文化外交の推進

三



駐日大使・外交官の配偶者のグループ「Welcome to Tokyo (WTT)」の来訪



オランダ 教育・文化・科学大臣が東京藝術大学COI拠点を視察



台湾・日本芸術文化交流事業 台湾文化光点計画

海外実践型研修授業 Arts Study Abroad Program 2018

国
教
三

美術・音楽・映像・国際芸術創造の4分野・12企画に合計99名の学生が参加し、海外渡航を通じた芸術文化活動を実践した。



【デザイン】日本×オーストリア アートブック・プロジェクト



【版画】GEIDAI/VCA Workshop Project and Exhibition Cross-Cultural Self Portrait, Trans-Contextual Practice



【音楽環境創造】芸術アニメーションと音楽の新しい共同制作技法



【ピアノ】韓国芸術総合学校との交流演奏会



【アートプロデュース】東京/上海・アートリサーチ・ワークショップ

国際交流協定の新規締結



2019年5月現在で、世界27カ国/地域、75の芸術系大学・研究機関と芸術国際交流協定を締結。2018年度は、世界をリードするオーケストラであるベルリン・フィルハーモニーの「カラヤン・アカデミー」と人材育成に係る連携協定を締結し、世界初の取組として同アカデミーヴァイオリン部門に藝大卒を獲得。

- 浙江師範大学美術学院
(2018年5月新規締結)
- コリングデザイン大学
(2019年1月新規締結)
- トリニティ・ラバン音楽院
(2019年2月新規締結)



ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミーとの協定を締結。第1期生として大学院音楽研究科器楽専攻修士の小川響子さんが合格。

海外一線級アーティストユニットの誘致



パリ国立高等美術学校、ロンドン芸術大学、シカゴ美術館附属美術大学、英国王立音楽院、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団、南カリフォルニア大学等の一線級アーティストユニットを誘致し、学生への教育指導や国際共同プロジェクトの内容の充実を図りつつ、国際共同カリキュラムやコースワークの構築に向けた協議・調整を進めた。



海外の第一線で活躍するアーティストによるレッスン・ワークショップ

外国人留学生・日本人の留学希望者支援体制の強化



言語・音声トレーニングセンター開講の日本語クラスに参加している外国人留学生と「英語アカデミック・スキル」を履修する日本人学生との交流授業を実施



2018年度後期 学長主催
留学生懇談会 (Welcome Party)



国際交流会館に入居する留学生と
地域の方々との交流会



ドイツ語・フランス語・イタリア語の
特別集中講座 (語学検定試験対策)

早期教育プロジェクト



全国12都市(奈良・京都・東京・和歌山・札幌・刈谷・仙台・東広島・岡山・北九州・福井・熊本)に本学教員が訪れ、才能ある子どもたちに公開レッスンを行った。



7. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【東京藝術大学】

国：国際化関連
 ガ：ガバナンス改革関連
 教：教育改革関連
 学：大学独自の成果指標関連

芸術文化外交の推進

国
ガ

文化財保護・芸術研究助成財団に協力し、北東アジア地域の民間主導の文化交流を積極的に推進する「日中韓文化交流フォーラム」の第15回を藝大で開催。

中国人民対外友好協会の李小林会長、韓日文化交流会議の鄭求宗委員長らの臨席のもと、「アジアを結ぶ弦の響き」をテーマに専門家による討議と日中韓の伝統楽器を使った楽曲演奏が行われたほか、故・松下功（本学副学長）の作曲による会歌「わたしは未来」（作詞：夢枕獏）を澤学長の指揮の下、声楽専攻する日本人学生と中韓の留学生が三カ国語で合唱、喝采を浴びた。

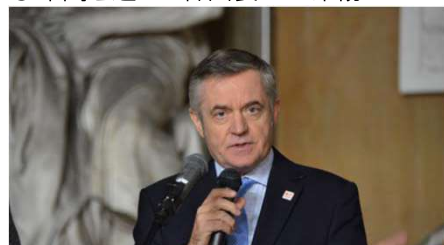


日本人学生と中韓の外国人留学生による合唱



本学Arts & Science LABを視察される李会長ら

●年間を通じて各国要人の来訪



在京オーストリア大使を招いての
ウィーン応用芸術大学との協定締結10周年
記念シンポジウム



ウズベキスタン共和国文化大臣の訪問



駐日ホンジュラス、ヨルダン、エクアドル共和国
の大使・公使による卒業・修了作品展の視察

東京オリ・パラに向け地域と連携してアートの力で日本の魅力を発信 国 学

被災地と世界を結びつけ復興を後押しするプロジェクトや、アーティストと福祉施設や支援を必要とする人々を結びつけ、新たなアートを生み出すTURNプロジェクトを実施。



藝大生と岩手・宮城・福島の中高校生による
「東京2020復興のモニュメント」の
ワークショップ



TURN



東京2020オリンピック・パラリンピック公式文化
オリンピアドとしてTURNプロジェクトを実施

瀬戸内国際芸術祭への出展 国 教

シカゴ美術館附属美術大学との共同授業による作品を公式出品。



美術・音楽・映像・国際芸術創造の4分野・11企画に合計135名の学生が参加し、海外渡航を通じた芸術文化活動を実践した。



【管打楽】音楽学部生からなる東京藝大
ウインドオーケストラのフランス公演



【グローバルアートプラクティス】
アジア現代美術のフィールドワーク



【アニメーション】フランス3大学院で
のアニメーション作品上映カリキュラム



【建築】ウガンダにおける
地産素材を活用したワークショップ



【オルガン】オランダ各所での
マスタークラス・成果発表演奏会



【アートプロデュース】ソウル／東京・
／台北 アートリサーチ・ワークショップ

海外一線級アーティストユニットの誘致

パリ国立高等美術学校、ロンドン芸術大学、シカゴ美術館附属美術大学、英国王立音楽院、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団、南カリフォルニア大学等の一線級アーティストユニットを誘致し、学生への教育指導や国際共同プロジェクトの内容の充実を図りつつ、国際共同カリキュラムやコースワークの構築に向けた協議・調整を進めた。



海外の第一線で活躍するアーティストによるレッスン・ワークショップ、コラボレーション

外国人留学生・日本人の留学希望者支援体制の強化



グローバルサポートセンターによる発表プログラム
「あなたの研究・創作で日本語を学ぶ」



言語音声トレーニングセンターによる
日本人学生と留学生の交流授業



トビタテ留学JAPAN 面接審査練習会



2019年度後期 学長主催
留学生懇談会 (Welcome Party)



国際交流会館に入居する留学生と
地域の方々との交流会



留学生向け日本文化体験イベント
筆ワークショップ

8. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【東京藝術大学】

国 : 国際化関連
 ガ : ガバナンス改革関連
 教 : 教育改革関連
 三 : 大学独自の成果指標関連

オンラインを活用した国際交流活動の飛躍的な推進

国
教
三

○オンラインを活用した国際交流



新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、実渡航による交流プログラムの実施が難しい中、新たにオンラインを活用した交流プログラムが大きく推進された。

- ① 日中韓共同カリキュラムとして、日中韓の学生を5組(1組5～6名)に分け、オンライン上で短編アニメーションの企画から上映までを行う国際共同演習を実施した。コロナ禍のため、参加者は一度も直接会うことはできなかったが、オンライン上のやりとりのみで、それぞれの組がアニメーションを完成させた。完成後は「五行協奏曲」として、5つのアニメーションを連続してオンラインで上映し、上映会のゲストからは高い評価を得た。
- ② アニメーション専攻ゲームコースではCOLL型教育を活用し、南カリフォルニア大学との共同ゲーム制作プログラムを行った。2021年3月にはオンラインでの中間発表会を実施。また、成果発表としてゲームコース展「GEIDAI GAMES 02」をオンラインとリアル会場のハイブリッドで開催した(配信での参加者数は約2,000人)。
- ③ パリ国立高等美術学校、ロンドン芸術大学、南カリフォルニア大学等の一線級アーティストユニットとオンラインによる交流を実施し、学生への教育指導や国際共同プロジェクトの内容の充実を図りつつ、国際共同カリキュラムやコースワークの構築に向けた協議・調整を進めた。

○東京藝大インタラクティブアジア2021



アジア地域との国際交流に焦点をあてたオンラインでの国際シンポジウム・国際フォーラム、芸術ジャンルごとのテーマによるディスカッションイベントを開催した。パートナー大学の教員や学生が参加し、これまでの取り組みの振り返りや今後の発展について議論する場を持った。

オンラインプラットフォームの構築



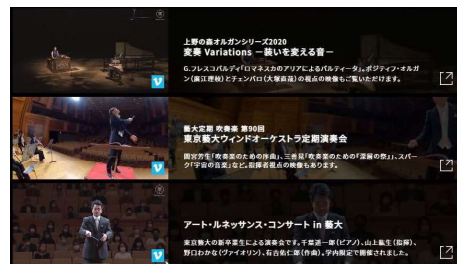
ICTを活用した新しい表現やコミュニケーションを追求し、コロナ禍での学生や一般の方の集うデジタル上の空間として、オンライン上のバーチャル・キャンパス『東京藝大デジタルツイン』を制作した。大学キャンパス内はもとより、大学美術館で実施される卒業制作展、奏楽堂(演奏ホール)での演奏会等、感染症対策によって入場者数制限が行われている状況でも体験できるような、新しい形のコミュニケーションの場を創設した。



コロナ禍でも学生や一般の方が来訪できる
オンライン上のキャンパス空間を
「デジタル藝大」として再現



美術学部の卒業・修了作品展の展示空間を
オンライン上に再現した「バーチャルツアー」

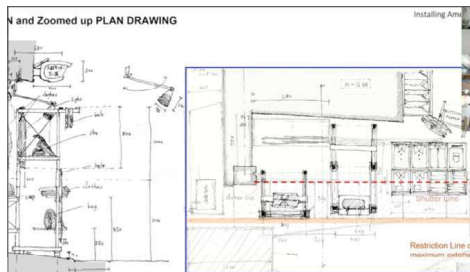


奏楽堂での演奏会や
パイプオルガン内部などの
バックヤードツアーも公開

実践型研修授業 Arts Study Abroad Program 2020



平時は海外渡航をベースに実施していたが、2020年度はオンラインによる国際交流事業を推進し、美術・国際芸術創造の2分野・3企画による芸術文化活動を実践した。



【建築】ワークショップ イン ウガンダ
(移動式店舗の開発ワークショップを通じて
2都市間の文化比較などを実施)



【先端芸術表現】『光州ビエンナーレと釜山ビエンナーレ』から学ぶ -
アジアにおける芸術祭のいま



【アートプロデュース】東京-台北
アートリサーチ・ワークショップ
(オンラインビューイングやボイスチャット
等を活用したフィールドワーク)

SDGsの推進



「TURN on the EARTH」展覧会では、東京2020オリンピック・パラリンピック公式文化オリンピックとして実施するプログラムの一つとして、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの属性や背景の違いを超えた多様な人々の出会い、表現を生み出すアートプロジェクトの成果を発表した。



海外の自閉症児療育施設などの児童とオンラインで糸巻きワークショップを開催し、児童たちが作った糸玉を用いて作られた作品

*TURN=東京藝術大学、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 Art's Embraceの共催事業

クラウドファンディング



「若手芸術家支援基金 #POWER TO THE ARTS」にて約3700万円の寄付を募ることができた。



外国人留学生・日本人の留学希望者支援体制の強化



留学生のための日本文化体験プログラム
キャラ弁作りワークショップ「コンビニおにぎりをもってPCの前に集合!」



東京消防庁池袋防災館での防災体験ツアー



トビタテ留学JAPANの申請支援

9. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【東京藝術大学】

国：国際化関連 ガ：ガバナンス改革関連 教：教育改革関連 三：大学独自の成果指標関連

多様な国際交流活動の推進

国 教 三

○敦煌研究院との合同オンライン交流イベント及び調印式



本学と敦煌研究院は、1982年に本学の学術調査団が敦煌研究院を訪問したことを契機に交流を始め、その後37年に及ぶ人材育成事業により関係性を深めてきたが、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中断を余儀なくされた。2021年12月に行われた調印式とオンライン交流イベントでは、改めて両機関のさらなる交流を深め、コロナ収束後の人材交流再開に向けて将来への展望を共有することとなった。

○SDGsの推進



SDGs x ARTs展

2021年6月に「SDGs推進室」を設置し、SDGsの達成に貢献するための取組みを推進している。全学的に「東京藝術大学SDGsビジョン」を策定し、「SDGs Q」というキャンパス内にSDGsの17のゴールにまつわるステッカーを貼るプロジェクト等を展開し、学内への普及活動に努めている。また、2021年7月には「SDGs x ARTs展」を開催し、「芸術はSDGsに接続できるのか」についての様々な取り組みや、試行錯誤のプロセスを共有した。



ロゴデザイン

○TURNプロジェクト

TURNとは、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクトの総称である。2021年7月に行われた「TURN茶会」では、本学の国際交流協定校等と連日オンラインでのトークイベントを行い、合計14の連携校と国境を超えた交流を行った。

*TURN＝東京藝術大学、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 Art's Embraceの共催事業



TURN茶会でのオンライン交流会



ネパール人向けのインターナショナルスクールでのワークショップの様子。このスクールはネパール政府より公式に「世界で初めてのネパール人学校」としての認定され、国内におけるマイノリティへの支援活動として行っている。

ダブルディグリー・プログラムの推進



①韓国芸術総合大学（映像研究科アニメーション専攻）

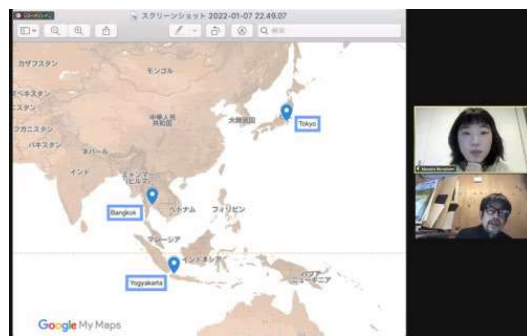
韓国芸術総合大学とはCo-workと呼ばれる国際共同授業を2010年より実施している。教育研究および人的な交流を今後も深めるものとして、2020年度にダブルディグリー協定を締結し、2021年度からダブルディグリー・プログラムを開始している。

②タイ・シリパコーン大学（美術研究科・グローバルアートプラクティス専攻）

シリパコーン大学は、英語による論文指導で秀でた指導力を有しており、本学の特徴である実技指導との相乗効果が見込まれ、双方の強みを活かした国際的な教育プログラムとして、2020年度にダブルディグリー協定を締結し、2021年度からダブルディグリー・プログラムを開始している。

③ポーランド・ヴロツワフ美術大学（美術研究科・版画専攻）

ヴロツワフ美術大学の版画研究室は、東欧において特筆すべき質の高さを有していることから、2022年2月に本学の版画研究室とダブルディグリー協定を締結し、交流を進めている。



タイ滞在中のダブルディグリー・プログラム派遣学生を交えたショートユニットプログラム

東京藝大アジアアートイニシアティブ2022



アジアの文化・芸術の潮流を継承し、持続的に発展させるため、アジア各国のパートナーとともに、文化芸術の教育・研究の立場から、様々な実践的プロジェクトを行っていく取り組みとして、アジアアートイニシアティブ事業を発足。2022年1月にはアジア地域との国際交流に焦点をあてたオンラインでの国際シンポジウム・国際フォーラム、芸術ジャンルごとのテーマによるディスカッションイベントを開催した。パートナー大学の教員や学生が参加し、これまでの取り組みの振り返りや今後の発展について議論する場を持った。



実践型研修授業 Arts Study Abroad Program 2021



2022年度はオンラインによる国際交流事業を推進し、美術・映像の2分野・2企画による芸術文化活動を実践した。



【建築】ワークショップ イン ウガンダ
(現地とオンラインでつないだワークショップなどを実施)



【映画】FEMIS-GEIDAI WORKSHOP
in Paris 2021
(オンラインによる映画製作レクチャー)

クラウドファンディング



文化芸術に関心の高い各界の民間有志による PCAF (Post Covid-19 Arts Fund) 実行委員会と、東京藝術大学との共同事業「ポストコロナ・アーツ基金/これからの社会をアーティストと探る」にて約500万円の寄付を募ることができた。

外国人留学生・日本人の留学希望者支援体制の強化



留学生のための日本文化体験プログラム
「書道体験ワークショップ」



トークシリーズ
「グローバルな視点で芸術・文化を考える」
在学生在がグローバルに活躍する
先輩アーティストへインタビュー



トビタテ留学JAPANの申請支援